

ヒルシュスプルング病

医学研究所北野病院 小児外科

ヒルシュスプルング病とは？

通常、腸には腸を動かす神経が分布しています。しかし、先天的にその神経が欠損していることがあり、その場合、腸の動きが悪くなることがあります。一般的には肛門近くの大腸の場合が多いですが、神経の欠損した腸管の範囲は患者さんそれぞれで違います。多くの症例は、便秘や腹部膨満、嘔吐といった症状で見つかることが多いです。

検査は？

検査は、注腸検査と言って肛門からレントゲンに写る液体（造影剤）を入れて腸の形を調べます。ヒルシュスプルング病が疑われる場合は、病変部分の腸が細く、正常の腸との太さに差が見られます。

注腸検査でヒルシュスプルング病が疑われれば、肛門から直腸の壁を少し取って、顕微鏡で神経の異常を調べます。神経の異常が見られれば診断が確定します。



治療は？

ヒルシュスプルング病は手術が必要な病気です。動きの悪い腸を切除して、正常な腸を肛門につなげる手術を行う必要があります。多くの場合、手術は腹腔鏡手術で行いますので、傷は小さいです。



長期的には？

手術後、問題なく排便が出来るようになる患者さんもおられますが、なかには便秘傾向になったり、逆に下痢気味になったりする患者さんもおられます。ヒルシュスプルング病の手術後は、長期にわたり排便の問題が残る可能性があり、外来で見ていく必要があります。